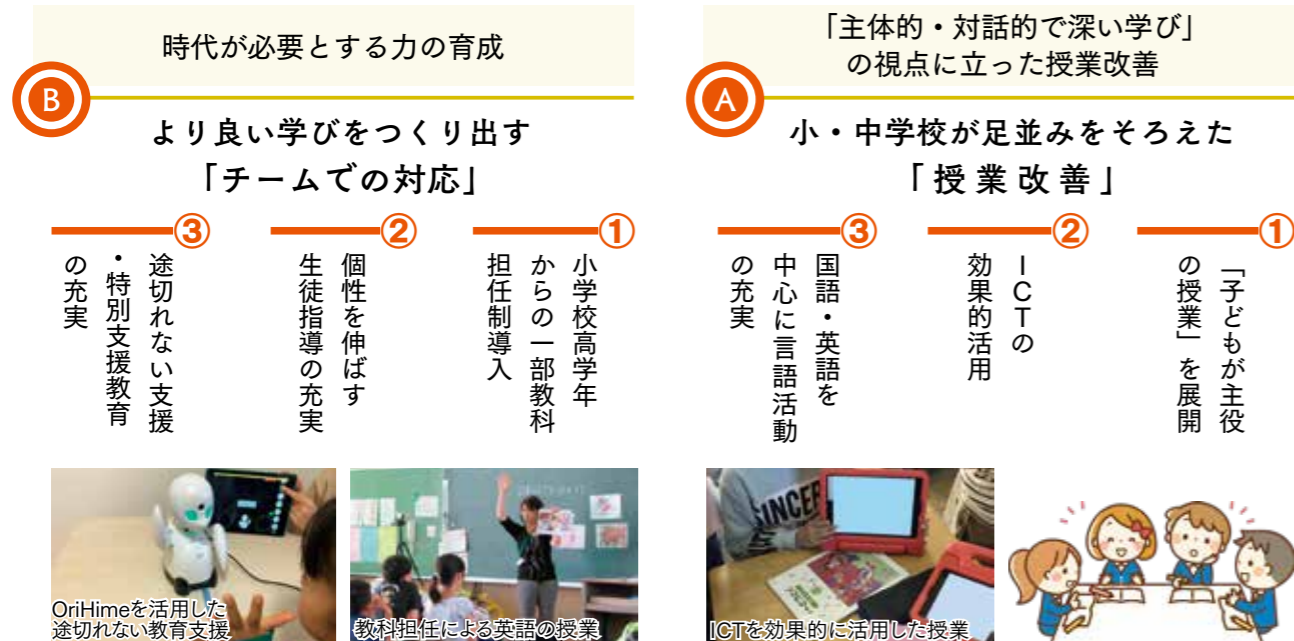


「夢を持ちその夢に向かって努力する子の育成」 桑名市の小中一貫教育

小中一貫教育とは? 小・中学校の教員がめざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育を行う制度です。

桑名市ではどんな教育をしていくの?

「授業改善」と「チームでの対応」の視点を大切に「3+3の取組」を進めていきます。

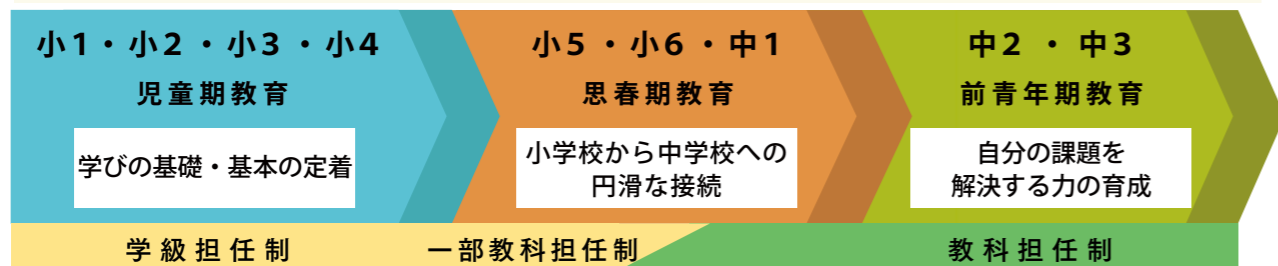


5年後のめざす姿

安心して育つ環境で、子どもたちの生きる力が育っています。

02 教育

発達段階に合わせて9年間の学びと育ちをつなぐ「4・3・2」



▷義務教育の9年間の前期4年・中期3年・後期2年の3段階に区分し、成長段階や学びに合わせて、小・中学校をつなぐ教育を行います。

9年間かけてじっくり育てます。



なぜ小中一貫教育を導入したの?

1. 教育内容や学習活動の量的・質的の充実

小学校の外国語活動やプログラミング教育の導入など教育内容の量的・質的充実に対応して、小学校高学年での専門的な指導の充実や生徒のつまずきやすい学習内容のフォロー、きめ細やかな学習指導などの工夫に取り組むことの重要性が増しています。

2. 子どもの発達の早期化

小学校6年、中学校3年の学校体系(6-3制)が導入された昭和20年代前半と現在の子どもの発達を比較すると、身長や体重の伸び、女子の平均初潮年齢が2年程度早まっており、思春期の到来時期が早まっています。

3. 小・中学校の違い(中1ギャップ)に対する不安感の解消

小・中学校の教育活動の違いや人間関係、生活の変化が子どもたちに精神的・身体的負担をかけていると考えられます。

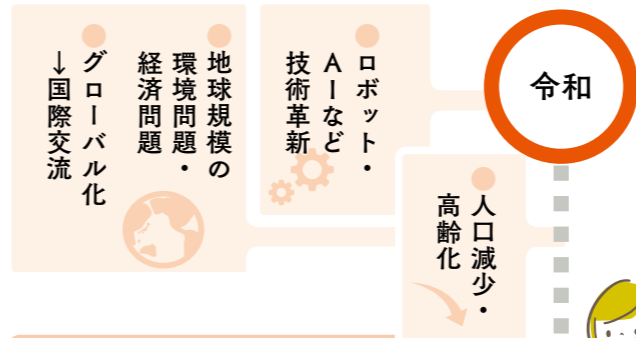
中学校は教科ごとに先生が替わるし、定期試験も部活動もあるみたいだけど…大丈夫かな?



人生100年時代 予測不可能な時代に向けて

●急速な社会状況の変化

医療体制の充実、医学の進歩など平均寿命は著しく伸び、人生100年時代の到来が予測されています。また、人工知能(AI)の進展、少子高齢化など社会は急速に変化しています。



教育の課題は?

グローバル化や情報通信技術の進展など社会の急速な変化の中に生きる子どもたちのために、これから求められる力や学び方を地域と一体となって育成することが求められています。

●急速な社会変化に対応するため子どもたちに求められる力とは…

正解が一つとは限らない課題に対して、主体的に取り組み、必要な情報を収集し、他者と協働しながら課題解決していく力が必要です。

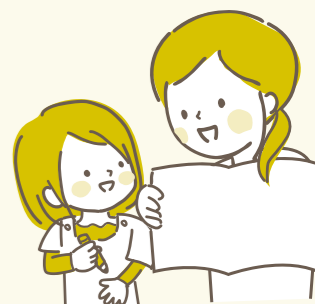


SDGsとは、2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。17のゴール・169のターゲットで構成されています。市でも「誰一人取り残さない」まちづくりを進めています。

教育

小中一貫教育を推進し、9年間の学びと育ちをつなぎます。

- 確かな学力の定着と向上
- 教育環境の整備
- 地域とともにある学校づくり



5年後のめざす姿

指標
授業改善を図ります
「授業で自ら考え、自主的に取り組んだ」と回答した生徒 5年後増加へ
令和2年度実績 **74.0%**

市が取り組みます!



タブレット端末を用いた授業



開放的なオープンスペース (大山田東小学校)

- 一人一台タブレットを授業で活用し、一人ひとりに応じたより良い学びの実現に努めます。
- 教室の壁を取り払い開放的なスペースをつくるなど、より良い学びの場の整備に努めます。
- 家庭や地域と連携して、地域社会全体で子どもを育てる環境の整備に努めます。

自分の課題を解決する力を育成する授業

SDGsの視点に立ち、各教科で学んできたことを横断的に生かして解決できる力を身につけていきます。

- 生きる力を育み、豊かな未来をひらく子どもたちが育っています。
- 児童・生徒が、快適で安全安心な学校生活を送れる環境がつくられています。
- 学校・家庭・地域が連携し、子どもたちが育っています。



市民が取り組みます!



見守り活動 (益世地区)



JAXA 山中浩三さんの講演会

- 地域が自主的・主体的に活動し、子どもたちの成長を支え、見守る活動が行われています。
- 学校と地域などが力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」が設置され、相互の連携、協働のもとに学校づくりと地域づくりを進め、一体となって子どもたちの成長を支えます。



①英語専科教員による英語の授業の様子。②益世小学校とマダガスカル共和国 アンズルベ小学校とのオンライン授業の様子。

(学校支援課)

英語力向上にむけ、どのような教育を進めていくのでしょうか?

市民編集員の「これも聞きたい」



黒木さん (2児の母)

現在

主体的・対話的で深い学びのある授業

タブレット端末などを使って意見交換や考えをまとめたりするなど、仲間の考えを聞き取り、自分の考えと比べながら理解を深めていく。

問題を解決する力や資質、能力が身につくようになっている。



仲間との意見交換



タブレット端末を用いたグループワーク

過去

理解することを中心とした授業

教科書を開いて先生の話しを聞き、黒板に書かれたことをノートに書いて勉強する。

覚えること、計算技能、文章を読み取る力が身についた。



この記事に関するお問い合わせは、秘書広報課へ (☎ 24-1492 FAX 24-1119)



日進小学校で一人一台タブレットを用いた授業の様子

この授業は今の社会では必須です。このコロナ禍で露呈されたとおり、学校に行けなくても教育が受けられる環境づくりが重要となってきます。桑名市では小中学校への学習用タブレットの整備に、いち早く取り掛かり、昨年の12月には全ての子どもたちが使えるようになりました。

さらに、小学校6年、中学校3年という概念も現在では変わりつつあります。現在多度地区で進めている多度地区小中一貫校は、令和7年度開校を目標に進めています。小中一貫校となることで9年間切れ目のない教育を受けることができ、子どもたちの体と心の成長に合わせ、義務教育9年間の学年を前期4年、中期3年、後期2年の三つに区分する計画です。新しい校舎では、最先端のICT教育に加え、さまざまな学習形態が可能となり、快適な学習環境が整えられたものになる予定です。



分身ロボット「OriHime(オリヒメ)」

Next vision No.2 教育



市長とみんなのネクストビジョン

特集「桑名市総合計画をひもとく」の第2弾は「教育」

近年、時代の流れが非常に早いと感じます。パソコンが普及し始めてからまだ30年そこそこ、スマホが一般的になったのはここ数年ですが、社会のデジタル化はものすごいスピードで進行しています。

学校教育においても不易流行。時代に合った教育を探り入れる必要があります。人生100年時代、人工知能時代を生きる子どもたちに求められる力と学び方も変わってきています。ICT教育という言葉が一般的となりつつあるように、情報通信技術を使った教育は今の社会では必須です。

また、教育は誰もが受けることができなければなりません。SDGsの考え方でもある「誰一人取り残さない教育」の実現のためにもICTを活用することでさまざまな学びが可能となります。昨年、病気や障害で学校に行くことができなかった子どもも、教室と家庭や病院をつないで教育をすることができるようになりました。

夢を持ち、その夢の実現に向けてがんばる子どもを育てたい。これが私たちのめざす教育です。行政だけではなくご家族、地域の皆さんと一緒に取り組んでいきます。